



# 林 声

2014

3 月号

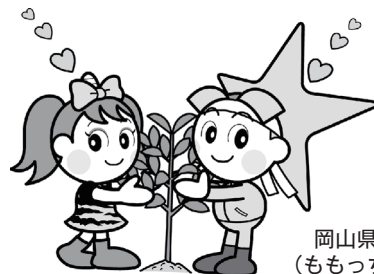


環境教育に力を入れている岡山県立矢掛高等学校では、平成24年度県産材活用UD整備事業を活用し、校舎の空きスペースを多目的室「ユネスコサロンFOREST」として整備しました。木材をふんだんに使用した暖かみのある空間で、床はマツ材とヒノキ材、壁はスギ材で施工されています。同校ではこの部屋を森林に関する情報発信や地域及び他校との交流の場として活用しています。

【施設概要】 床面積88.7㎡ 木材使用量8.05㎡

## 目 次

事業紹介 .....	2	山火事の防止について .....	10
普及情報（真庭支部） .....	3	技能講習会、イベント情報 .....	11
これからの道づくり（路網計画編）③ .....	4	林産物市況 .....	12
普及情報（倉敷支部） .....	6		
研究だより .....	7		
木材利用技術⑧ .....	8		
おかやま森づくり県民税について .....	9		



岡山県マスコット  
(ももっち・うらっち)

## 森林・山村多面的機能発揮 対策交付金について

里山林は、居住地近くに広がり、薪炭用材の伐採、落葉の採取等を通じて地域住民に継続的に利用されることにより、維持・管理されてきた森林です。

しかし、このような里山林は、昭和30年代の石油・ガスなど化石燃料の普及、化学肥料の普及等により地域住民との関係が希薄になり、侵入竹などによる荒廃が進んでいます。

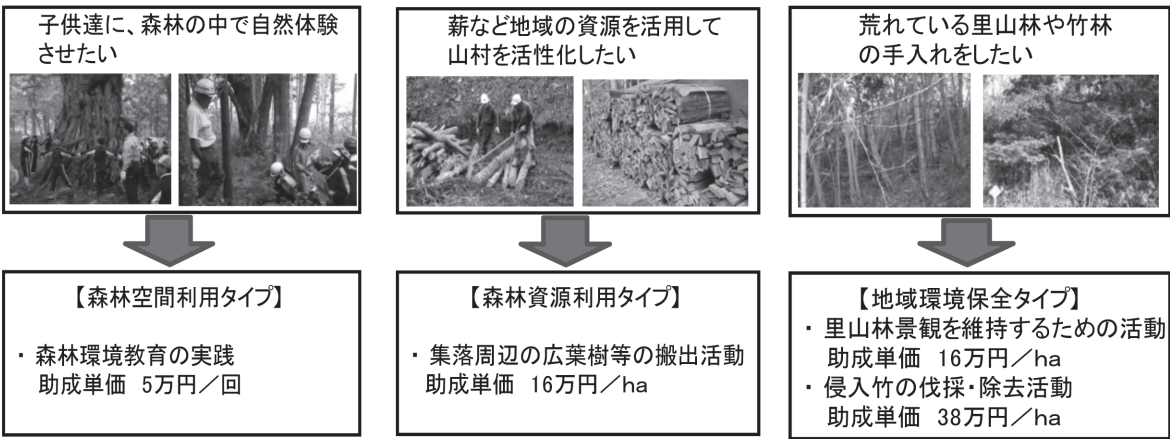
このため国において、里山林の保全管理や資源を利用するための活動に対して、平成25年度から27年度までの3年間助成される制度が創設されました。

### 一 対象となる組織（活動組織）

活動組織の構成員は、地域住民、森林所有者等地域の実情に応じた方（3名以上）で構成してください。地域の自治会、NPO法人、森林組合等が単独で実施又はいち構成員となることも可能ですが、活動組織としての規約の作成や区分経理が必要となります。

### 二 活動メニュー

主なものは次のとおりです。



このほか、活動を実施するために必要な機材及び資材の購入・設置に対して、必要額の2分の1が助成されます。

### 三 対象となる森林

森林経営計画（及び森林施業計画）が策定されていない森林であって、活動組織と森林所有者とで利用協定を締結している森林です。要件を満たしていれば、学校林や公有林でも活用可能です。

（森林空間利用タイプでは、森林経営計画等が策定されている森林であっても対象となります。）

### 四 活動区域

地域住民による里山林の保全、利用を支援することが本交付金の目的であるため、活動組織は、活動する森林と同じ市町村又は隣接する市町村内に事務所を有することが必要です。

（森林資源利用タイプについては、岡山県内に事務所があれば、県内全域が対象となります。）

### 五 主な留意点

本交付金では、3年間継続した活動を実施すること、事業終了

後においても継続した活動を行うことが必要となっています。

### 六 活動計画書

活動組織名、所在地、取組の背景及び概要、3年間の活動計画、年度別の取組内容、計画図、委託内容等を記載した計画書を作成する必要があります。

### 七 その他

国の支援期間は、平成25年度から27年度までとなっていますが、28年度までの延長や内容拡充について検討されています。

### 八 お問い合わせ

具体的な内容や手続き等については、本交付金の交付窓口「岡山県森林・山村多面的機能発揮対策協議会（事務局 一般社団法人岡山県森林協会）」もしくは、お近くの県民局森林企画課、地域森林課、市町村の担当課へお問い合わせください。

<http://www.pref.okayama.jp/page/351087.html>

（林政課森林保全班）



普及情報

新任教員研修（森林体験活動）の実施について  
真庭普及指導区



一 はじめに

この研修は、県教育委員会の主催により、小中学校新任教員を対象に社会体験活動のメニューの一つとして実施され、平成25年度は真庭普及指導区の林業普及指導員が講師となり実施されました。参加者35名を対象に11月7日と28日の2回に分けて実施しました。

体験を重視したいとの要望を受け、真庭市三阪地区の真庭産業学習館及び付近の市有林を会場に設定し、間伐や木工をメインに座学や実験も取り入れたプログラムを準備しました。



森林・林業についての講義

しかし、研修当日は両日とも悪天候のため間伐作業を中止し、室内学習に変更しての開催となりました。

二 研修内容

まず、森林・林業の現状について講義を行いました。林業には馴染みのない受講者であるため、森林の働きから木材の利用まで、地域の実情を紹介しながら、わかりやすく心を掛けて講義を進めました。

次に、一枚板から本棚などを制作する木工体験を行いました。初めての体験という参加者も多く、道具の使い方から指導する必要がありました。自分だけの作品の完成を目指し、悪戦苦闘する人、休憩時間返上で没頭する人、皆、苦労しながらも何とか完成させることができました。



木工体験

山地流出実験では、岡山県農林水産総合センター森林研究所が作成した「森林の持つ水源かん養機能や土砂流出防止機能をわかりやすく紹介することができました。



山地流出実験

最後に間伐作業に代えて、室内での樹木学習を実施しました。樹木の特徴のとらえ方（分類用語）を学び、検索図鑑を使って自分での名前を調べる方法等を体験しながらの講義としました。急きよ付近の山林から樹木サンプルを用意することにになり、特に2回目は紅葉を過ぎようとする時期であったため、サンプルの収集には苦労しました。それでも、グループで用語を確認しながら図鑑を開き、正解に辿り着いた喜びを感じてもらえました。

研修後には、意見交換やアンケートも設定されており、教育現場を



室内での樹木学習

担う受講者からは「体験を通して理解させることの大切さを実感した。授業に取り入れた。」との声が多く寄せられ、私たちの普及活動においても同様であることを再認識した活動となりました。

三 おわりに

準備もさることながら、参加者の安全確保が大切であり、急きよ、メニューを変更することとなりましたが、各方面から応援、御協力により、無事に終えることができました。

普及指導区では、今回の研修のほか、林研グループ等と協力しながら、地域の小学校等で実施する森林・林業教室を通じて森林に対する理解を深めてもらう活動を続けていきたいと考えています。

（林業普及指導員 竺原光男）

特集  
森林作業道作設  
オペレーターのための  
これからの道づくり  
その3(路網計画編)

より良い森林作業道を作設するために、オペレーターには、施業を行う森林全体を見据えた路網計画や作業システム、路線選定方法等に関する知識を有していることが求められます。最終回となる今回は、この路網計画に必要な内容について紹介します。

一 団地全体を見据えた路網計画と作業システムの選定

本県の森林は所有者や林齢等が異なる小規模な森林が隣接している場合が多く、効率的な施業を行うため、これらの小規模な森林を団地化して施業を集約化し、低コスト化を図ります。

よって、路網計画を考える際には、団地全体の将来ビジョンを明確にした上で、団地内の林況(樹種、林齢、胸高直径、樹高等)や予想される伐採量から森林作業道が網羅すべき区域の把握を行い、これらに応じた施業方法と適切な作業システムを検討する必要があります。

特に作業システムの選定は路網を計画する上で重要になります。作業システムは大きく分けて、車両系と架線系に別れ、主に現地の傾斜や作設する路網密度等から作業機械を選択します。(表一)

区分	作業システム	路網密度(m/ha)	作業システムの例			
			伐倒	木寄せ・集材	枝払い・玉切り	運搬
緩傾斜地(0~15°)	車両系	100~250	ハーベスタ	グラブ	プロセッサ	フォワーダ トラック
			チェンソー	ウインチ	プロセッサ	フォワーダ トラック
中傾斜地(15~30°)	架線系	25~75	チェンソー	スイングヤーダ	プロセッサ	フォワーダ トラック
			チェンソー	ウインチ	プロセッサ	フォワーダ トラック
急傾斜地(30~35°)	架線系	15~50	チェンソー	スイングヤーダ	プロセッサ	フォワーダ トラック
			チェンソー	タワーヤーダ	プロセッサ	フォワーダ トラック
急峻地(35°~)	架線系	5~15	チェンソー	タワーヤーダ	プロセッサ	トラック

表一 傾斜と路網密度に応じた作業システム例

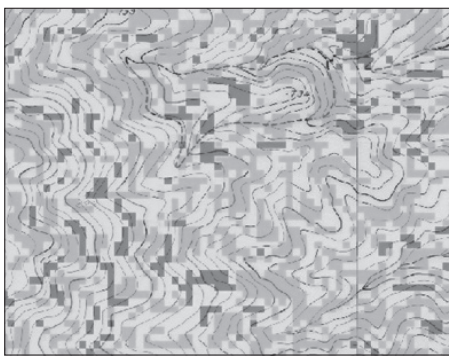
路網の計画にあたっては、網羅すべき区域に加え、現地の地形・地質、公道や既設作業道の整備状況等と集材距離、適した機械の大きさやこれに対応する森林作業道の幅員、作業にあたる人数などの施工能力等を見極め、作業システムが効率的に稼働できる路網を総合的に判断しながら計画します。

二 路線選定作業は資料収集から

団地全体の路網計画に続き、路網を構成する幹線や支線を、どこに通すかの路線選定も非常に重要になります。

路線選定には、まず地形や地質等のくわしい情報を把握する必要があるので、できるだけ詳細な資料を収集します。

主なものとしては、森林基本図・国土基本図の地形図、航空写真、地質図等があり、それぞれ県出先事務所、書店、インターネット等から入手することができます。また、岡山県では森林GISを利用した森林基本図上に傾斜区分毎に色分けした「傾斜区分図」(図一)も提供していますので、急傾斜地の回避など路線選定作業に活用す



図一 森林GISによる傾斜区分図

ることができま

地形図や航空写真等の準備ができたからこの情報をもとに、地すべり地、崩壊地、岩盤、転石、湧水などの作業道をつけてはいけない箇所を読み取ります。この際、地形図による検討には、1/5,000を主に用いますが、1/25,000~1/50,000程度の縮尺も併用し、地形の大局的な情報から細部へと段階的な読図を行います。

三 地形に沿った線形にする

線形は、幹線と支線は分けて検討します。幹線は高低差を稼ぐための山の上下りや、施業地の間を連絡する道で、支線は林業機械を使って集材作業などを行う道に位置づけられます。

幹線はなるべく地盤が安定した稜線を走る線形とするほか、山の上下りする際には地盤が比較的安定した尾根をS字カーブやスイッチバックで利用します。

支線は幹線から等高線状に分岐させる線形とすることで集材が容易となり、雨水による路面浸食も少なくなります。(図二)



四 現地を十分歩いて最終決定  
 現地の状況は、資料だけでは把握しきれない点があるので、資料で計画した路線を実際に歩いて、地形や地質・土質、林況、不安定な地形や岩石地、湧水地を確認し、作業の効率化や雨水処理の方法を再検討します。

現地では、机上で作成した図面をもとに、ポールやハンドレベル等を使い縦断勾配を確認した上で、横断面が確保できるか検討しながら作業を進めます。この際、いわゆる「タナ地形」を見つけ出し、

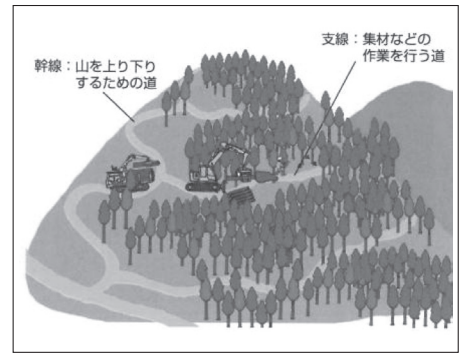


図-2 基本的な線形

また、循環型の路線とすると、すれ違いがなくなることから、待避場所を設ける必要がなくなりま

このほか、谷渡り箇所、幹線と支線の取り付け位置、路面排水の位置等も考慮しながら、線形を決めていきます。

また、現地ではセンターラインや、路面の高さ、盛土法尻位置に目印を付けると、作業道作設の際に役立ちます。

これら現地踏査には、十分に時間をかけて行い、設計者とオペレーターが異なる際には、情報を共有するため、一緒に踏査を行うこと

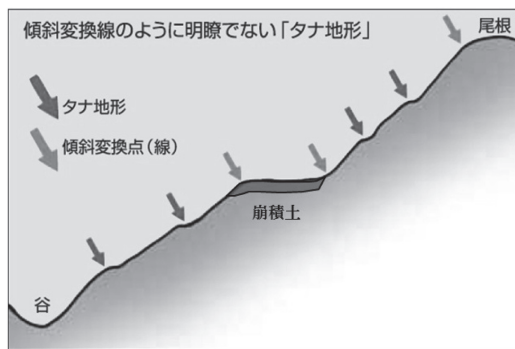


図-3 現地ではタナを見つける

これを利用した線形にすることがコツとなります。ただし、崩積土が堆積している場所は、作設後に崩落する危険があり注意が必要です。(図-3)

このほか、オペレーターを対象に、実際にバックホウに乗りながら、工法の基礎から応用まで指導を受ける研修会を開催しており、



写真-1 検討会開催状況

岡山県では地域の地形・地質や、施業に合った森林作業道の作設技術の検討を行うため、日頃から作設に関わっている森林組合や林業事業者、おかやまの森整備公社、県関係課等が参加した「岡山県森林作業道作設技術検討会」(写真-1)を開催し、岡山県版の作設マニュアルの作成に向けた作業を進めています。

が望まれます。

五 岡山県に適した作設技術の検討

六 おわりに  
 3回にわたり森林作業道の作設技術について解説してきましたが、これからの道づくりに求められるのは、地域に応じた丈夫で簡易な道づくりです。

オペレーターの皆様におかれましては、これまで紹介しました内容を基に、県下各地で作設されます森林作業道がより良いものとなりますよう、それぞれの地域において創意工夫されますことをお願い申し上げます。

(普及推進課 林業普及推進班)



写真-2 オペレーター研修状況

今までに約100名の方が受講されています。(写真-2)

普及情報

**「穂先たけのこ」を活用した竹林整備の取組**

倉敷普及指導区



1 はじめに

倉敷市真備地区は良質なタケノコを生産する県下随一の生産地で、県全体の8割以上の生産量を占めています。しかし、安価な中国産の輸入や生産者の高齢化等により、竹林が放置され、タケノコ生産量の減少が懸念されています。これに対処するため、倉敷市は、地域ブランドである「真備町産タケノコ」の更なる振興を目指し、平成23年度から「穂先たけのこ」を活用した竹林整備の取組を始めました。

2 「穂先たけのこ」の活用

竹林整備とタケノコ生産は分けることのできない関係にあります。つまり竹林整備が進むことで、タケノコの品質向上や増産が可能となり、さらに収穫が行われることで、竹林整備が進んでいくというわけです。

しかし、現状は、生産者の高齢化等による労務負担がネックとな

り、整備と収穫の循環ができていないことから、同市は収穫しやすい「穂先たけのこ」に着目し、地元の関係団体へ呼びかけ、次の実証的な取組を行いました。

(注：「穂先たけのこ」とは、タケノコ掘りの時期を過ぎ、人の背丈ほどに伸びたタケノコの穂先の部分。)

3 取組内容

市は、真備旬生産組合と連携し、穂先たけのこの伐採、搬出の収穫



穂先たけのこの収穫

作業に取り組みました。タケノコは、個体ごとに成長が異なりますが、当初は収穫を長く行えるよう

うに約2mまで伸びたタケノコを先端から20cm程度の柔らかい部分を利用していました。しかし、硬くて使えない箇所が多いこと、未利用部分の処理(伐採、整理)が現場で負担となっていたことから、2m以下のものも積極的に利用することとしました。収穫の受け入

れと加工については、JA岡山西に依頼し、穂先を釜ゆでしたものを真空パック詰めにする試作も行いました。

また、食材としての利用について、地元の主婦でつくる若竹生活交流グループや岡山県立大学栄養学科の協力を得て、穂先たけのこを使った調理方法を検討しました。試食会を企画し、来場者アンケート



穂先たけのこ料理の考案

トを行う等、試行錯誤の結果、メンマやたけのこ鯛飯など菌ごたえのある食感を活かした料理を考案しました。

さらに、こうした穂先たけのこを活用した取組をPRしていくため、ミニのぼり旗やパンフレットを作成し、地域での普及、定着に役立てています。

関係者は、これまでの活動を取りまとめた冊子を作成するため都合を重ねています。

真備地域において、竹林整備と

タケノコ生産がうまく循環していきつかけとなる冊子づくりをねらいとしており、3月上旬、穂先たけのこ料理の試食会を兼ねて、成果発表を行うこととしています。昨年春は、近年になくタケノコが不作で、実証事例を積み重ねる事が十分で



活動成果のとりまとめ

4 おわりに

この取組は、備中県民局調整費を活用し、農業、林業の各普及指導員も参画しています。穂先たけのこを流通させていくには課題もありませんが、この取組が一過性のものに終わらないように支援していきます。また、竹林整備への気運が盛り上がり、この事例が各地域へ波及し、好循環が生まれることを期待しています。

(林業普及指導員 難波武博)



研究だより

マツタケ研究の最前線

森林研究所 林業研究室  
専門研究員 藤原 直哉

一 はじめに

近年マツタケの収穫量は、以前と比べ大きく落ち込んでいますが、それに相反し、高級食材としての地位が高まっています。現在のところ、マツタケの栽培は、アカマツ林の環境整備に依存する自然栽培技術しかありません。そのため一説には、マツタケの人工栽培が成功すれば、その産業規模は1兆円に拡大すると評価されています。しかし、この技術の開発は、どの程度まで進んでいるのでしょうか。まず、研究の歴史から紐解いてみましょう。

二 研究の背景

最初に、「トリコロマー・マツタケ」の学名が公表されたのが1900年ですから、100年以上前の明治時代の話になります。その後大正、昭和を経て、戦前の西日本でマツタケに関する報告が次々と公表されました。1909

年には、津山市出身の植物学者、川村清一氏がサマツタケについて報告し、1925年には、岡山県庁の山本徳三郎氏が人工栽培について触れています。戦時は中断されましたが、1950年に京都大学で学術研究が再開されました。また中国地方では、岡山大学や広島

県農業短大（現在の県立広島大学）でも研究が開始され、1960年前後からは、全国で増産技術の研究が始まり、今日に至っています。その後1990年代から遺伝子解析や酵素研究が始まり、マツタケにもシイタケやヒラタケと同じく、有機物を分解する能力が備わっていることが明確に確認されました。現在は農学だけでなく、工学、理学、医学、薬学など様々な分野の知見が融合され、新しく生命科学として再興されようとしているところです。

三 最新の研究

こうした中、森林研究所では最も研究が進んでいる根粒菌とマツタケを比較する研究を行いました。根粒菌はマメの根に感染するチツ素固定菌として知られ、宿主植物の根から分泌される化合物に誘引

されることによって感染します。この現象を研究したところ、アカマツの根に微量含まれるフラボノイドが、マツタケ菌糸の成長促進効果を持つことを見い出しました（写真1）。この時、細胞内のミトコンドリアにある電子伝達系遺伝子が顕著に活性化されることを確認しました（写真2）。

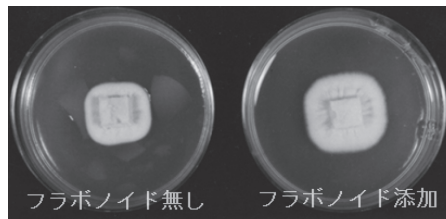


写真1 フラボノイドの添加効果

また、このフラボノイドに結合する糖を、マツタケが利用することも解明しました。これはマツタケが宿主を識別することで他の菌類との競合を避け、栄養を得るための相互作用と考えています。

この様に、宿主の重要性が再認識されたことから、逆にアカマツの詳細な研究を行った結果、実際にアカマツの根を材料とした培地でマツタケ菌糸を培養することができました。

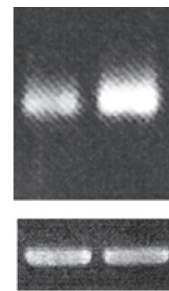


写真2 遺伝子の活性化 (右：フラボノイド添加)

四 林業への展開

マツタケが宿主の感染シグナルを識別するのであれば、結局のところマツタケとアカマツは、切っても切れない関係となり、特に若い根の存在がポイントになります。土壌中で休眠しているマツタケ菌は、宿主アカマツのフラボノイドに誘引されて根に辿り着き、感染していると考えられ、それは成長に必要な栄養を根から得るためと推測できます。安定的にマツタケを生産するには、アカマツの根量を維持することが重要です。

現在、抵抗性アカマツの植栽によるマツタケ発生林の整備は着実に進んでいます。さらに古いアカマツ林の更新を進めることが、将来の林業振興に繋がると考えられます。

木材利用・技術 ⑧

「木質バイオマスの利用」

貴重な資源として見直され

樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を排出しながら、炭素として体内に固定する光合成によって成長します。この炭素は、伐採された後も、木材として住宅や家具等に利用される長い間、貯蔵され続けます。そして、その役目を終える際には、一旦、二酸化炭素として大気中に放出されますが、樹木の成長に伴う光合成によって、再び樹木に固定されます。このように、木材の利用は、大気中の二酸化炭素を増やすことにはならないため、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に大きく貢献するものと考えられています(図1)。

森林から生産される原木は、全てが利用価値の高い材料として、使用できるわけではありません。たとえ、すべてを丸太として搬出する場合でも、地際や梢の部分、枝葉など、立木の約半分は残材となるのです。また、近年、石油価格の上昇や地球温暖化の防止といった観点からも、木質バイオマ

スが貴重な森林資源として見直されてきています。

エネルギー源への活用に向けて

当研究室では、これまで木材の材料特性等の研究を中心に組み込んできました。また、木質バイオマスの活用については、新たな商品開発に向けた研究を進めていますが、加えて、貴重なエネルギーとしての活用に必要な研究を始めています。

木質バイオマスを発電などのエネルギー源として用いる場合、木材中の水分量が燃えやすさに大きく影響します。燃焼効率を高めるためには、十分に乾燥させておくことが重要ですが、製材品を対象とした、品質を重視した方法とは異なり、「あまり経費をかけることなく」「いかに効率良く」「一定程度の水分を除く」ための方法を新たに見出す必要があります。このため、当研究室では、真庭市内の2箇所調査箇所を設け、集積されている木材の存置方法や乾燥させる季節や期間等が水分の減少経過に与える影響について調査・研究を行っています(詳細は本誌432号、「ヒノキ丸太の天然乾

燥」。

木質バイオマスのエネルギーの有効利用は、その需要を拡大し、活力ある林産業の再生に繋がるものであり、特に、県内では木質バ

イオマス発電施設の建設準備が進められており、当研究の成果への期待が高まっています。

(農林水産総合センター 森林研究所木材加工研究室)

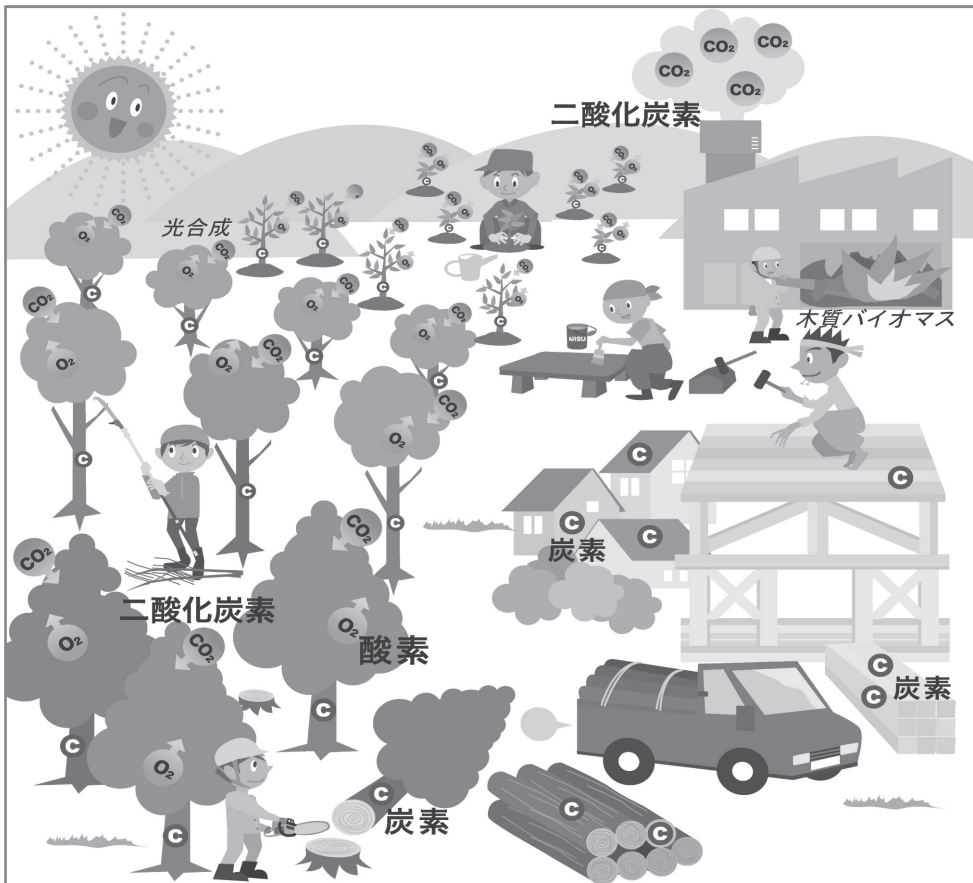


図 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) と炭素 (C) の循環



## 「おかやま森づくり県民税」の継続及び使途の方向性等について

おかやま森づくり県民税については、今年度末に5年間の課税期間が満了となるため、岡山県税制懇話会において事業効果の検証や制度の見直しについての検討が行われました。その結果、これまで実施した県民税事業は森林保全に効果があったと評価され、また今後、間伐等の継続的实施のほか、スギ花粉の大量発生対策など新たな課題にも取り組む必要があることから、「現行の課税方式や税率のまま、継続させることが望ましい。」との報告書が取りまとめられました。

この報告を受けた県では、課税期間を更に5年間延長する条例案を昨年11月の県議会で審議いただいたところ、全会一致で継続が決定されました。今後5年間の使途の方向性等については下表のとおりで、現在、具体的な充当事業について検討しているところです。

### ～ 県民税事業の主な実績、今後の課題及び使途の方向性等 ～

16年度～25年度実績	今後の課題	使途の方向性・施策
<b>1 森林の持つ公益的機能を高める森づくり</b>		
<b>健全な人工林の整備</b> ・奥地林、管理放棄地等の切捨間伐 ・造林補助事業(国庫)の切捨間伐充当 ・風倒木被害地の復旧 ・作業道の開設・補修 ・スギ間伐材の搬出  <b>多様な森づくり</b> ・水源地域の県有林化 ・松くい虫被害林の再生 ・市町村提案型森づくり	<b>健全な人工林の整備</b> ・奥地林等での継続的な間伐実施 ・偏った齢級構成の平準化 ・再造林による林業経営の持続 ・スギ林の成熟に伴う花粉の大量発生対策  <b>多様な森づくりと快適な森林環境の創出</b> ・松くい虫被害林の健全化 ・ナラ枯れ被害の拡大防止 ・居住地周辺等里山林の荒廃対策	<b>健全な人工林の整備</b> 間伐等の継続的な促進 ・施業集約困難地への支援 ・木質バイオマス資源の活用  再造林による持続的な林業経営の実現 ・再造林による人工林の若返り化 ・少花粉スギ苗木等供給体制整備  <b>多様な森づくりと快適な森林環境の創出</b> ・松くい虫被害林の再生 ・ナラ枯れ被害林の健全化 ・里山林整備による快適な森林環境の創出(荒廃森林の整備、有害鳥獣生息域拡大防止等) ・市町村提案型森づくり
<b>2 担い手の確保と木材の利用促進</b>		
<b>担い手の確保</b> ・新規就業者の研修等 ・安全作業のための装備等を充実  <b>木材の利用促進</b> ・公共施設等の県産材利用 ・治山施設等の風倒木活用 ・小学校への県産材製机、椅子の配付	<b>力強い担い手の育成</b> ・専門的な知識・技術を有する優れた人材育成  <b>木材の利用促進</b> ・長期低落傾向にある木材価格 ・年々充実する人工林資源の活用	<b>力強い担い手の育成</b> ・専門的技術研修の拡充 ・意欲的な林業事業者の支援  <b>木材の利用促進</b> ・公共施設等の木造・木質化を促進 ・優れたヒノキ材の販路拡大
<b>3 森林・林業情報の提供と森づくり活動の推進</b>		
<b>県民への情報提供</b> ・広報媒体や街頭等でのPR  <b>県民参加の森づくり</b> ・指導者の育成 ・保育のつどい等の開催 ・企業等の活動への支援 ・森づくりサポートセンター設立	<b>県民への情報提供</b> ・森林の働き、林業の役割及び県民税活用事業についての一層の周知  <b>県民参加の森づくり</b> ・森林ボランティアグループや企業等による自主的な森づくり活動の促進	<b>県民への情報提供</b> ・情報発信手段の多様化と充実 ・県民税事業実施者による啓発活動の促進  <b>県民参加の森づくり</b> ・サポートセンター活動への支援 ・企業との協働の森づくりの推進 ・森林体験学習や都市と山村交流活動の促進

ご存知のとおり、森づくり県民税はすべての県民にご負担いただいておりますが、岡山の森林を皆で守り育てていこうとする機運を一層高めるためには、私たち森林・林業・木材産業関係者が一体となって、森林の働きや林業の役割等を県民に分かりやすく周知していく必要があります。市町村や関係団体等におかれましても、県民税事業の実施を通じた現場からの積極的な情報発信をよろしく願います。

(林政課 普及指導班)

3月は山火事予防月間です

冬から春先にかけては、空気が乾燥し、風の強い日も多くなることから、山火事が大変起こりやすい季節です。

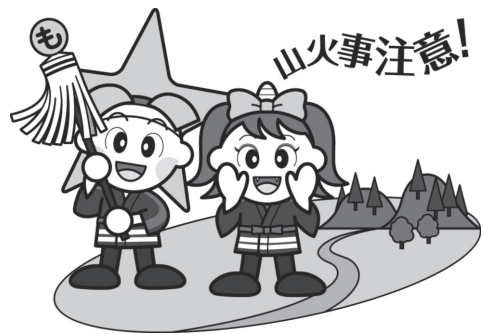
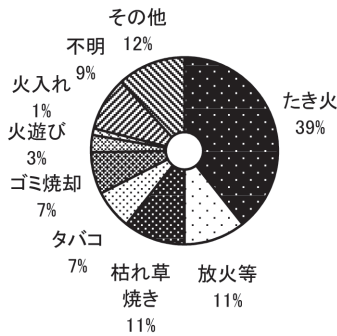
過去5年間で、岡山県では441件の山火事が発生し、239人の緑が失われました。原因のほとんどが、たき火の不始末、たばこの投げ捨て、火遊びといった人の不注意によるものです。

岡山県では、3月を「山火事予防運動月間」として、

『守りたい 森の輝き』

防火の心』を統一標語に、山火事の予防を呼びかけています。

出火原因別発生件数比 (H21 ~ H25)



※山火事を防ぐ6つのポイント

- 強風・乾燥時はたき火をしない
- たき火の後始末は完全に
- タバコの投げ捨てはしない
- 子供の火遊びはダメ
- 山焼きやあぜ焼きなどは一人でしない
- 火入れをするときは許可を受けよう

(治山課 造林班)

FOREST INSURANCE

森林 国営保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林  
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！  
 保険金がでるのは？

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で7千万円以上の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース (1ha あたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年  
 保険期間…5年 保険金額…最大188万円  
 一括払いだと 21,225円 (5年間計)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年  
 保険期間…5年 保険金額…最大299万円  
 一括払いだと 37,375円 (5年間計)

1ヶ月あたり  
約 350円

わずか缶ビール  
1本分

1ヶ月あたり  
約 620円

わずかラーメン  
1杯分

- 保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。
- 条件によって契約金額が変わってきます。

○ ご相談は、最寄りの森林組合、県民局(森林整備課)・地域事務所(地域森林課)の窓口へどうぞ。

岡山県農林水産部治山課

電話番号 086(226)7455 (直通)



## 技能講習会の開催(4~6月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名称	会場	日程	申込・問合せ先	
小型移動式クレーン運転	岡山	5月22, 23日	(社)岡山県労働基準協会 TEL (086) 225-3571	
	津山	6月3, 4日		
玉掛け(未経験者対象)	岡山	4月3, 4日・5月15, 16日・ 6月12, 13日		
	新見	5月8, 9日		
	和気	5月22, 23日		
	津山	5月29, 30日		
	玉野	6月23, 24日		
	笠岡	6月26, 27日		
林業架線作業主任者免許試験 受験準備	岡山	4月15, 16日		林業・木材製造業労働災害防止協会岡 山県支部 TEL (086) 221-2160
刈払機作業従事者	津山	5月15日		
	岡山	5月28日		
	新見	6月5日		
伐木	津山	6月26, 27日	中国四国安全衛生技術センター TEL (084) 954-4661	
移動式クレーン運転士		5月16日		
林業架線作業主任者		6月10日	陸上貨物運送事業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL (086) 234-1332	
はい作業主任者	岡山	5月15, 16日		

## 森林・林業関係イベント参加募集

開催日時	場 所	行事名称・内容	問合せ・申込先等
3.16(日) 9:00 ~ 12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第167回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 塾長 田村駿逸 TEL (0866) 62-8614
4.20(日) 9:00 ~ 12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第168回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 塾長 田村駿逸 TEL (0866) 62-8614

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット

間伐材利用植生マット

間伐材利用生分解型植生マット

間伐材利用生分解型植生シート

間伐材利用植生シート



「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目  
間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

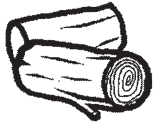
太陽と緑の国づくり  
**Nihon 日本植生株式会社**

<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>

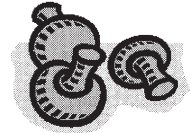
津山支店 / 津山市高尾 573-1 TEL (0868) 28-0256

岡山事務所 / 岡山市北区芳賀 5325 TEL (086) 294-1000

NETIS登録: CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」



# 林産物市況



木 材 (2月19日)

単位：千円/㎡

樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り	樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り			
杉	3m	14～16	13	-	7	檜	3m	14～16	27	-	21	-
		18～20	13	-	7			18～20	24	-	21	-
		22～28	12	-	10			22cm上	20	-	18	-
	4m	18～22	11.5	-	9.5		4m	14～18	26	-	20	-
		24～28	11.5	-	9.5			20～22	23.5	-	20	-
		6m	16～18	18	-			10	24～28	23	-	21
18～22	11		-	8	30cm上	23		-	21	-		
松	4m	18～22	12	-	10	6m	14～16	35	-	26	-	
		18～22	12	-	10		18～20	34	-	26	-	
・出荷材積 約 1,800 ㎡												
記号 △ 強気配 - 横ばい ▼ 弱気配					(共販所より概況) スギ：全体に横ばい ヒノキ：全体に横ばい 直材の造材をお願いします							

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値。

製 材 (2月中旬)

樹 種	寸 法	等級	区分	安値～高値	備考
スギ	正角 3m 10.5cm 角	特等	K	65,000	
	正角 3m 12cm 角	特等	K	65,000	
ヒノキ	正角 3m 10.5cm 角	特等	K	80,000～	
	正角 3m 12cm 角	特等	K	80,000～	
マツ	平角 4m 10.5～12cm×15～18cm	一等	K	65,000	
米マツ	正角 3m, 4m 10.5cm 角	特等	G	56,000	
	平角 3m, 4m 10.5×15～21cm	特等	G	56,000～58,000	
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm 角	特等	K	70,000～75,000	
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm×10.5cm	特等	K	58,000～60,000	国内挽

注：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。



## 「緑の募金」ご協力をお願いします

緑の募金でふせごう地球温暖化

募金期間

春のみどりの月間

4月1日～5月31日

秋のみどりの月間

10月1日～10月31日

口座振込は  
こちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会

岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511





## 緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助  
治山・林道の調査、測量、設計、積算  
森林整備・森林公園の総合計画

### 一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711  
津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

## サンケイの松くい虫防除薬剤

多目的使用（空中散布・地上散布）ができる

**スミパイン<sup>®</sup> 乳剤・MC**

積れる松枯れ防止用散布剤

**モリエート<sup>®</sup> SC・MC**

ナラ枯れ予防用樹幹注入剤

**ウッドキング<sup>®</sup> SP**

伐倒木用くん蒸処理剤

**キルパー<sup>®</sup> 40**

伐倒木除菌剤

**パインサイド<sup>®</sup> S油剤D**

樹幹注入剤

**グリーンガード<sup>®</sup> ファミリー**

お問い合わせは最寄りの県森連・森林組合へ



**サンケイ化学株式会社**

大阪市淀川区西中島4丁目5番1号 TEL(06)6305-5871



緑あふれる環境づくり

**株式会社 山都屋**

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号  
TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142  
<http://www.yamatoya-net.com>

大阪営業所 津山営業所 水島営業所

## 安心と信頼の証を届けます



創業以来、永年に渡り体育器具・遊具を製作してまいりました。地元メーカーとして責任ある製品作りに取り組み、安心と信頼を皆様にお届けします。



日本体操協会器械器具検定工場・日本公園施設業協会認定工場  
**大久保体育株式会社**

■本社 〒703-8214 岡山市東区鉄409 TEL (086) 279-0585 FAX (086) 279-0460  
■倉敷営業所 〒710-0312 倉敷市藤戸町天城1021-1 TEL (086) 428-7576 FAX (086) 428-6153  
■東京営業所 〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-21-3 TEL (03) 3863-0722 FAX (03) 3863-0778

### 事務局からのお知らせ

◎会員及び投稿募集しています

事務局では新規会員を随時募集しています。林業に興味がある方へぜひ、ご紹介ください。

また、会員の皆様からの紙面に対するご意見・ご要望をお待ちしています。イベント予告、参加者募集のお知らせも行いますので、お気軽に情報をお寄せください。（イベント・参加者募集につきましては、掲載希望月の2ヶ月前までにお知らせください。）あわせて、森林・林業に関する寄稿も募集しています。皆様の熱い思いをお届けください。

送付先

〒700-8507

岡山県庁林政課内 または

〒717-0013

森林研究所木材加工研究室内



今年度もご愛読誠にありがとうございます。来年度も引き続きの購読をよろしく願います。

平成二十六年三月一日（第四三四号）  
（隔月一日発行）

編集 岡山県林政課内 岡山県林業改良普及協会  
発行 〒700-8750 岡山市北区内山下二一四一六

## 共 販 日 の ご 案 内

岡山県森林組合連合会



4 / 9 (水) 津山木材共販所 開設 52 周年記念市

4 / 16 (水) 勝山木材共販所 開設 48 周年記念市

4 / 23 (水) 新見木材共販所 開設 50 周年記念市

◆各共販所とも多くの出荷をお待ちしております

6 / 6 (金) 乾しいたけ春季特市



岡山県乾椎茸品評会・箱物コンクールを7月に

開催しますので、多数のご出品・ご参加をお願いします。(出品締切 5/21)



## — 安全・人と自然・調和 —

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕コニファー水和剤

〔幼令樹保護カバー〕くわんたい

〔樹皮食い防止に〕バークガード

〔野生草食獣食害防止〕防獣ネット

〔クズ専用除草剤〕ザイトロン・ザイトロンフレノック・ケイピンエース

〔樹幹注入剤〕マッケンジー注入剤

(お問い合わせ申し込みは県森連・森林組合へ)

販売元：日植アグリ株式会社

大同商事(株)大阪営業所

TEL：086-292-5525

TEL：06-6231-2819



高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255

<http://www.mitsuyoshi.com/>

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 森産業株式会社  
総発売元

岡山営業所 岡山市北区辰巳 46-104  
TEL 岡山(086)805-7033(代)

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材

防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号  
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。(間伐材10%+古紙70%)

R70